

2021-2022
**WEEKLY
BULLETIN**

本日の
プログラム

第2510地区
Rotary

札幌東ロータリークラブ



1月27日(木) 第20号 第3001回 例会

分かりやすい職業奉仕

地区職業奉仕委員会委員長 玉井 清治 氏

3000回記念例会 会員卓話

吉山八郎会員

平素は、大変お世話になり有難く御礼申し上げます。本日伝統と名誉のある札幌東ロータリークラブ例会第3000回に皆様と共に出席出来ました事、大変光栄で皆様と共に心から喜びたいと思います。

札幌東ロータリークラブは、昭和34年3月14日第一回の例会を札幌市民会館で行いました。札幌では3番目、北海道では、現在135クラブの内24番目の誕生でした。今回の卓話に際し、記念誌を読みまして改めて先人、先輩のご苦勞を知り又、毎年、のガバナー公式訪問では、各委員の素晴らしい奉仕活動を絶賛しています。このクラブは全道一のクラブと自負しています。

私事ですが、モラロジー道德教育財団法人発行のニューモラルは、大谷会員のお父さんが会

長の時からですから、32年間になります。その間2回も感謝状を頂き恐縮しています。終わりに、この伝統と名誉ある札幌東ロータリークラブが、四つのテストを守り、皆仲良く、今後200年300年の繁栄と共に会員皆様の一層のお多幸をご祈念申し上げ卓話を終わります。



青木功喜 会員

塚原房樹 会員

吉山八郎 会員



■本日のロータリーソング
奉仕の理想

2021~2022年度 国際ロータリーのテーマ
「奉仕しようみんなの人生を豊かにするために」
国際ロータリー会長：シェカール・メータ

塚原房樹会員

《例会の意義》

日頃、ロータリーの「例会」について深く考える機会はありません。3000回例会というこの記念すべき時に、ロータリーの「例会」を改めて考えてみましょう。クラブの例会はロータリー運動の原点であり、またロータリー運動の中心です。

ロータリーは「人生の道場」といわれます。つまり、他のロータリアンと切磋琢磨して自分自身を磨き、奉仕の心を涵養する場である「例会」が、ロータリー運動の一番大事な原点なのです。

ロータリーには、クラブ奉仕、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕、青少年奉仕という五大奉仕部門がありますが、これらは大事ではあるが、「例会」に付随した一部分にしかすぎないのです。あくまでもロータリー運動の中心は例会にあります。

では何故例会は大事なのでしょうか。ロータリーの会員は、一業種一会員制で選ばれた会員で原則として同業者はおりません。そしてロータリアンは皆企業の管理者なのでレベルは同じ、つまり「等質」の者同士は親睦がうまくいきます。

しかしロータリアンは皆職業が異なります。職業が違えば人生観も異なります。つまり「異質」の会員の集まりです。「等質と異質」の出会い」は爆発的の自己改善効果を生みます。親睦のうちに他業種の智慧を学ぶ、これを切磋琢磨というのです。

毎週の例会で親睦のうちに少しずつ異業種の知恵を学ぶ、すなわちロータリーは異業種の交流の場であり、人生の道場なのです。

《なぜ出席100%は大事なのか》

ガイ・ガンディカー(1923-24年度RI会長、関東大震災のときのRIの義損金25,000ドルは彼の名において送られてきた)によると、ロータリアンの義務は、例会は勿論、あらゆるロータリーの会合に必ず出席すること、もちろん例会出席率は100%でなければなりません。例会は会員相互の交流が目的で、いわば電流の通った電線のようなもので、電線というものは、電気が通ったり通らなかつたりするようでは、さした役には立たない

ので、常習欠席者罷免の原則は断固として行わなければならないとあります。

《例会は茶道の精神で》

ロータリーの例会はよくお茶の会に例えられます。茶室には人が一人頭を下げにくぐり入れる大きさの躰(にじ)り口があります。いかに身分の高いものも頭を下げ入ります。茶室では、人の上下はありません。身分(浮世の仮面)を脱ぎ去った客と、世俗としぼし一線を画した亭主が、人と人の交流を図らんとする空間は素晴らしい発明であります。

ロータリーも茶道と同じく、世俗と一線を画した非日常の世界であります。そして例会に出席する上での約束事があります。まず、例会場の入り口で、世俗で身につけたもの(社会的地位や名誉、金銭の多寡等)をすべて脱ぎます。それによりロータリーの例会場は平等、無競争の空間となります。その空間に週に一度、厳しい競争社会を離れて出席します。一週間ぶりに心の友と出会いリフレッシュします。

そして浮世でつけていた仮面を脱ぎます。すると心が明るく良質化されます。そのロータリーの例会という世俗と一線を画した非日常の世界で得た、良質化された心を持って職場へ戻ります。経営者の心が明るく、リフレッシュされているから従業員も明るく良質化されます。その反射的効果で地域社会も明るくなるのです。これが奉仕の原点です。「入りて学び、出て奉仕せよ」というロータリーの金言はこのことを表しています。

《亭主ぶり・客ぶり》

お茶の席では、「亭主ぶり」と云って出席の方々にも新しい思い、新鮮な印象を与えるよう心がける。ちょっとしたことでよろしいのですが、そういう心遣いでお茶会が運営されれば、出席者は心足りた思いが得られます。またお客様の方も「客ぶり」といって亭主の心配りを十分味わう姿勢を貫いてお互いにその努力や気配りを感謝しあいます。ロータリーも同じで例会での「亭主役」は、会

青木功喜会員

長・幹事さんをはじめ、各委員長さんたちです。例会の主催者として当日のプログラムを始め、食事、席割等々に細かく気を配ります。

例会を楽しくと簡単に云っても、本当の楽しさを生み出すためには、人間学といいましょうか、人の心についての勉強が必要です。クラブライフは奥深いものであり、例会には重い意味があります。とにかくロータリーの会員は一国一城の主ばかりですから、命令や利害では動きません。この人たちに心足りた思いで例会に出席していただくためには、お茶席にお客様を呼ぶのと同じような心構えが必要でしょう。

また例会出席者は、毎週の例会にそのような気配りされている会長・幹事さんをはじめ、各委員長さんの「亭主ぶり」に対して、感謝の気持ちをこめた「客ぶり」の心を忘れないようにして、例会に出席したいものです。パークホテルの皆様にもあらためて感謝をいたします。

最後に、記念すべき3000回例会を迎えたこの時、会員の皆さん、先輩たちの築いた札幌東ロータリークラブの輝かしい歴史に思いを馳せ、更なる未来へ「例会」をつないでください。

[札幌東RC黎明期の奉仕活動の追跡

による実態とその後]

皆様は札幌東ロータリーに入会する時、クラブの歴史と伝統を重んじますと宣誓します。その歴史は5年ごとに発行される記念誌と毎週の会報からクラブ伝統は読み取れます。

私が入会した1979年は、戦後の高度成長のイザナギ景気で、クラブテリトリーが廃止された翌年でした。15年後のロータリー100周年大会では、5大奉仕の個人奉仕からポリオプラスの集団奉仕に舵を切り、単年度奉仕から経年奉仕にかわり、活動の最前のロータリアンは減り始め、ロータリーの主役はロータリアンからクラブに移行しました。本日の3000回記念例会においては、我がクラブの黎明期の社会奉仕と国際奉仕から最近のロータリー奉仕の推移を述べます。

街路樹の植樹運動は、1962年から毎年平均100本のニセアカシアを、合計1082本10年間に植樹し、1971年の札幌市の都市計画の、歩道のあるすべての道路に街路樹植栽をするという具体的な目標に協力した、旧連兵隊通のニセアカシア120本の植栽には建築大臣賞を受賞しました。

現在の菊水7号線は立派に街路樹として都市景観を維持しております。



ニセアカシア1971年植樹の現在

東札幌菊水本郷線は旧白石区役所の後、いかに推移していくか注目されます。



1972年ニセアカシア建設大臣賞受賞の現在

黎明期の社会奉仕では、ニセアカシアの速い成熟での、早期緑化を期待しましたが、成長の早い樹種の選択の弊害である生育不良、過密化、根上がりが起こり、造園業の横山安行会員は、190本の補植を行いました。以後のニセアカシアの植林は中止され、ライラック、八重桜、モミジ、トウダンを付近の公園内で行い、公害防止のスパイクタイヤ装着宣言にクラブとして参加しました。

1961年から10年間在籍した三浦会員は北大、オレゴン大の教授を併任し、ボーイスカウト関係での知己も多く、クラブの青少年交換の土台を作ってくださいました。森林面積が州の半分を占め、環境の評価も全米一であったポートランド市から、1963年ロータリアンの会員の3名の子が1963年横浜経由のアイダホ号にて来札、小樽港から帰米しました。その後、姉妹提携を結んだポートランド北クラブとの間で、学校の休みの短期間にクラブ間交換が継続され、1974年、地区交換プログラムとしてポートランドからキャシー・バー嬢、当クラブの笠原美和子嬢の1年間の交換が実現しました。

20年間在籍した早崎会員の、コロンボプランに従事した経験とアンケート調査で作成した交換留学の手引書は、地区委員会で広く活用されました。以後青少年交換は、オレゴン州から1981年に

はニューヨーク州にも拡がるとともに、オーストラリア、カナダ、スウェーデン、ブルガリアの諸外国にも拡大し、多くのクラブ会員が地区青少年活動に参加し、地区では最も多い92名の高校生の交換が行なわれました。

青少年交換が長く継続できたのは、host familyを頻回に受けた会員のご夫人方の協力の賜物でした。手のかかった学生ほど印象深く、立派に育った学生を楽しみに、国際交流を継続し、毎年の世界大会では、交換学生とその家族と再会し、国際交換を続けました。2000年には、host familyのご夫人の有志の皆様たちは、我が国で初めて英国のマンチェスター市に本部のある国際インナーホイルクラブ(IIW)に自発的に正式加盟し、IIWは2023年3月に100年行事を迎えます。

創立当時からクラブテリトリーであった創成川の東側は、創成川アンダーパスが出来2011年から公園として創成川公園が管理しています。春にはコブシの花が河畔に咲き、多種多様なライラックを楽しむことができます。夏にはシダレヤナギやハルニレの木々が深緑となり、秋になるとハギの花が咲き、ヤマモミジは紅葉し、冬にはモミが雪とのコントラストを生み出しています。ニセアカシアに変わって植えられたナナカマドは自生する薔薇科の落葉樹で紅葉が美しく、街路樹とし



社会奉仕植林 創成川公園

て6～7月に白い花を多数咲かせ、樹皮は平滑で横長の皮目で、桜に似ており、白石区の街路樹は4,540本を数え白石区のシンボルの木となりました。ニセアカシアは1989年にナナカマドに1996年にはイチョウに追い抜かれました。ナナカマドとイチョウは札幌の街路樹の27%を占めています。桜の街路樹は南区と北区が1.6%、白石区では0.3%ですが近年サイクリングロードを中心に桜のシーズンになると賑わっております。

日本のロータリーは本年100年目を迎えました。グローバル化の波にのり、ロータリーは、開発途上国の会員が増え、先進ロータリー諸国の会員が減少し、120万の総数は変わっておりません。巨大化したRIはRotary One CenterからRotary Head Quarterに推移し、強制的な通達が目立っており、親睦と奉仕、利己と利他のジレンマの日本のロータリアンは、理論か行動か模索の道を歩み始めています。

最近とみに世界最強の人道組織を目指すロータリーは、ポリオプラス以外のプログラムは中止し、行動はロータリアンからクラブに移り、財団主体のNon-Profit Organizationとなりました。しかしかつてのロータリアンの奉仕活動は、大切にしたいと思えます。

かつて大気の90%以上あった二酸化炭素は、生物たちによって酸素に変えられました。その結果酸素を吸って二酸化炭素を出す動物が生きることができると今の地球を38億年の年月をかけて作り上げました。人類が他の生物と共に地球を分かち合っていることを認め、それらの生物が人類に対する利益とは関係なく存在していることを受け入れることは、人は自然を破壊することなく暮らすことができない限り、謙虚な心を忘れずに、生物多様性を利用しながら、生物多様性を保護する取り組みを持続可能な限り行う必要があります。

ホモサピエンスは、酸素を生産する自然の中で、20万年前に誕生し、現在は68億人と極限状態に達しています。人のエゴイズムは、38億年という途方もない年月で育て上げた生物多様性を一気に崩壊し、化石燃料を使い果たし、空気中の二酸化炭素の濃度を高めています。一方エイズ、鳥インフルエンザ、コロナウイルスの反撃が始まっています。これは生物界にとっては想定内の出来事かもしれない。一方持続可能な都市に向かった街づくりで札幌の姉妹都市ポートランド市が、近年注目が集めており、その目的は生活の質を高める低炭素型社会への歩みであります。



社会奉仕植林 イチョウ